

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 定時制課程)

目指す学校像	心豊かな人間を育成し、生徒の夢を実現する学校
--------	------------------------

重点目標	1 仕事と学校生活の両立を支援し、基礎学力の向上を図る。 2 基本的生活習慣の確立を図る。 3 自己の適性を知り、希望進路を実現する。 4 地域社会に根ざした学校づくりに努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 学習面で課題を抱えている生徒が在籍している。 【課題】 学習意欲が育っていない生徒が存在し、基礎学力の差が大きい。	基礎学力の向上を図る授業改善	定期的に生徒アンケートを実施し、その結果を分析・検討し、基礎学力を定着させるための授業改善を図る。	アンケートによる生徒の授業に対する満足度が上がったか。	生徒生活アンケートによる生徒の授業に対する満足度が高い生徒は78.1% (H28は82.2%) となり、やや下がる結果となった。	B	個々の生徒の学力向上について対応策を丁寧に検討する必要がある。
		学習意欲を高める	希望者と成績不振者や出席状況が良くない生徒に対して面談や補習授業などの個別指導を実施する。	成績優良者が増加し、成績不振者が減少したか。	成績優良者は31.3% (28.4%) で増加した。また、成績不振者は28.9% (33%) で減少した。	A	成績については、目標は達成しているが、「満足度を高める」こととの関連を検討して対応する必要がある。
2	【現状】 基本的生活習慣の乱れや社会のルールを遵守できない生徒がいる。 【課題】 学校及び担任と家庭が連携を密にした指導の充実。	基本的生活習慣の確立を図る取組	①学校生活のあらゆる場面で積極的な「声かけ」・「挨拶」を実施する。 ②全職員による欠席・遅刻防止指導を実施する。	①生徒アンケートにより、生徒の挨拶に対する意識が向上し、挨拶が増えたか。 ②欠席・遅刻数が減少したか。	①アンケートの結果から、生徒の挨拶に対する意識の向上が見られ、84.9% (80.8%)、挨拶をきちんとできる生徒が増えた。 ②改善週間の取組により、わずかながら、遅刻数が減少した。	A	挨拶への意識向上と定着を高める取組は、今後も継続する。長欠者の出現に対する早期の対応により欠席数の増加を減少させる必要がある。
		規範意識の醸成	定期的な巡回指導・校門指導の実施及び家庭と連絡により、問題行動を防止する。	生徒指導の件数が減少したか。	生徒指導の件数は5件(9件)で、大きく減少した。	A	発生時期は、年度前半に偏っており、年度当初の指導を徹底していく。
3	【現状】 自分の適性、進路の目標を見出せずにいる生徒が多い。 【課題】 生徒の発達段階と適性に合った進路目標の設定と実現。	発達段階と適性に合った進路目標の設定	①定期的な進路アンケートの実施と、県事業を活用した進路指導を実施する。 ②全年次において進路ガイダンスを実施する。	①生徒アンケートにより年次ごとに、自分の適性、能力を把握できたか。 ②就職での業種区分及び進学での専攻分野を理解できたか。	①②アンケートの結果から、「卒業後の進路をしっかりと考えている」生徒が1回目51.3%から2回目52.1%とわずかに上昇した。進路ガイダンスの実施、社会体験の実施により、就職・進学についての意欲を高めることができた。	B	年度内の意識の向上を見ることができたが、半数は「しっかりと考えている」状態ではない。進路意識の向上を目指して全年次への働きかけを検討して継続していく。
		進路決定率100%の実現	進路実現に向けて就職者・進学者を対象とした計画的な補習等の指導を実施する。	進路決定率100%が実現できたか。	今年度も進路決定率100%が実現できた。	A	就職・専門学校・大学等、進路先の多様化への対応を継続していく。
4	【現状】 地域との連携が育ちつつあるが改善の余地がある。 【課題】 有効な学校情報の内容と発信方法の検討を進め地域における学校理解を深める。	学校情報の発信	①HPの更新を週1回行い、さらに新しい資料を作成し、学校情報の発信を行う。 ②地域の行事等に参加する。	①地域、小・中学校に最新の学校情報を発信できたか。(57回) ②地域の行事等に参加できたか。	①今年度の情報発信回数は、61回で昨年よりも多くの情報を発信するとともに内容も充実させることができた。 ②2つのコミュニティーセンターで夏季休業中に木工教室を実施することができた。	A	「定時制」と「工業」、「大宮工業高等学校」の魅力は今後も継続して発信していく。
		地域・小中学校との連携	中学校訪問や中学校教員向け説明会により情報交換を行うと同時に、地域住民・小学生を主な対象に開放講座を実施する。	地域・小中学校との情報交換に努め、地域を取り込んだ行事・開放講座が実施できたか。	中学校教諭の説明会・体験入学への参加が実現した。また、本郷町と東大宮のコミュニティーセンターで夏季休業中に生徒が講師となる木工教室を実施することができた。	A	1年次生による母校訪問、中学校教諭の体験入学等への参加を拡大を図り、地域との連携をさらに深めていく。

学校関係者評価
実施日 平成30年2月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>家庭学習については、テスト前だけしかやらない現状がある。日常の家庭学習について、どのように取り組めばよいかを家庭で指導することは難しく、「勉強のやり方」自体を含めて教員・学校側から指導してもらう必要がある。</p> <p>学校行事等の際、面識のない生徒からも挨拶され、学校での取組が定着していると感じる。生徒指導件数が減少していることは、評価できる。落ち着いた環境が整ってきていると感じる。</p> <p>この高校に入って、夢を見つけることができた生徒がいる。保護者として、子どもが決めたことを後押ししていきたい。生徒自身が、「自分はどうしたいのか？」を適切なタイミングで考えることができるように指導して欲しい。</p> <p>HP更新については、安定して運営されている。今までの学校行事等を中心として情報を発信する取組に加え、今後は、日々の授業や実習等への取組などについても発信を増やせればよい。</p> <p>受検生の立場で、中学校側から本校についての詳しい情報を得ることが難しいように感じる。本校から中学校への情報提供等の働きかけを増やしていく必要がある。</p>